

広げよう！優良実践の輪！

～平成27年度 頑張る学校応援事業 優良実践校の取組～

取組 16

学校独自のアクションプランに基づいた 学力向上のための取組

岡山市立福渡小学校

1 はじめに

本校は、全校児童57名、各学年単級の小規模校です。学校に対する保護者・地域の方の期待は大きく、子どもを「地域の宝」として地域全体で大切に育んでくださっています。

本校の課題として、学力の定着状況に個人差があり学力向上が十分に実感できるまでには至っていないこと、また、家庭学習の時間が十分ではないなどの家庭学習習慣の課題があります。こうした課題に対して、授業力の向上、PTA（地域）の教育活動への参画などに取り組んできました。

2 福渡小学校アクションプラン

本校のめざす子ども像「かがやく子を育てる」の具現化のためにアクションプラン（注）を策定し、学校・家庭・地域が協働

で、学力の向上と個々の児童の成長・変容を実感できる教育活動を模索してきました。

（注）福渡小学校アクションプラン

1	確かな学力の向上
2	自ら健康・体力づくりのできる子どもの育成
3	心豊かな子どもの育成
4	E S D で育む郷土愛
5	子どもの成長を支える環境づくり
6	地域・保護者の信頼に応える学校運営

（1）アクションプラン

確かな学力の向上の取組

岡山市教育委員会作成の「授業これだけは！」との関連を図りながら、「めあて」「ひとりの学び」「みんなとの学び」「まとめ」など、考え表現する場を確保した「授業改善」に取り組んでいます。また、全学級共通した「朝学習」を実施し、計算・漢字習熟度テストなどを行っています。「家庭学習」では、少人



5年生算数「面積」グループでの学び合いの様子

数の特性を生かし、自分で計画して家庭学習に取り組むことができるよう、内容や方法の個別指導を行いながら取り組んでいます。

（2）PTAアクションプラン

アクションプラン1～6の項目に対して、PTAが主体的に実施する内容を考え、取り組んでいます。めざす子ども像の現に向け、家庭との連携は欠かせません。そこで、PTAが主体となつて取り組む「学力向上の基盤を支える取組」や「子どもの健康を支える取組」などの活動計画を策定しています。本校の課題でもある家庭学習に関しても、「忘れ物・宿題忘れ

口の取組」など、PTAが主体的に実施する取組を考えています。

3 おわりに

学力調査結果では多くの児童が「授業が分かりやすく楽しい」と感じるようになってきており、また、全教職員が指導力の向上をめざし、互いに学び合う教職員集団となってきました。今後も、子どもたちや教職員、保護者・地域の方も「学校が楽しい」「オール福渡」で取り組んでいきたいと思えます。



「福渡小学校アクションプラン」に基づいた、4年生総合的な学習の時間「福渡キレイ☆きれいなプロジェクト～福渡駅をきれいにしよう～」の様子

（校長 片山 健）

全教職員による組織的な対応を基盤にした
落ち着いた学校づくりの取組

津山市立鶴山小学校

1 はじめに

本校は、児童数481名、通常学級16、特別支援学級5で、今年度創立35周年を迎えました。数年前まで様々な問題行動が多発する中で、学校全体に落ち着きがなく、学級崩壊が生じたり、生活規律を守らない児童による児童間・対教師トラブルが繰り返されたりする状況が続いていました。そのため、教職員は事象に振り回されて、授業改善や学級づくり等の取組が不十分な実態がありました。

2 取組の概要

(1) 生徒指導研修くたて糸

外部講師を招聘し、児童の共通理解と教職員の共通行動を目指しました。特に、毅然とした指導とは「誰もが、どの子に対しても、同じ指導をしていくこと」を意識して、全員で取組

んできました。

(2) 学年団会の充実くよこ糸

「1人になるな、ひとりにするな」を合言葉に、めざす子ども像や情報を共有し、授業実践や課題解決に向けた指導法のブレやズレをなくしていきました。



学年団協議

(3) 組織的対応

生徒指導主事や児童支援コーナー、デイネーターが適時ケース会議

を開催し、チーム対応を推進しました。必要に応じて、行政や専門機関と連携した個別ケース検討会議を開催しました。

(4) 学力向上対策

授業改革推進員を中心に、授業改善や算数科の少人数指導を実施、新たに放課後補充学習の開始、家庭と連携した家庭学習のすすめ等、児童の学習習慣の定着に取り組んで来ました。

(5) 小中連携による取組

中学校ブロックの生徒指導の一環として、「当たり前3カ条（あいさつをします。きれいにします。時間を守ります。）を各小・中学校で徹底させました。

(6) 児童の主體的な活動

6年生が計画したなかよしプロジェクトで、1年生を迎える会、仲良し遠足、わくわくタイム、運動会等に取り組みました。上級生が下級生の世話をしながら交流を深め、お手本になったり下級生が憧れる存在になったりしました。

(7) 保護者・地域の協力

「学級役員をファンに、PTAを応援団に」を目指して、子育ての話や親育ち応援学習プロ

グラムを全学年で実施する等、活動の活性化に取り組んで来ました。

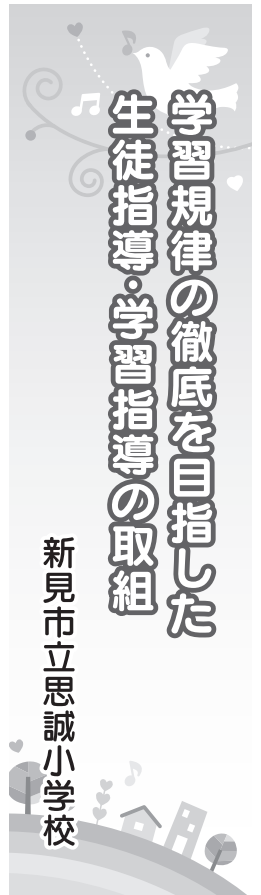


なかよしプロジェクト

3 成果と今後の課題

規範意識や学習意欲が向上して学校がしだいに落ち着いてきました。しかし、低学力や発達障害傾向の児童、不登校や厳しい家庭環境の児童の存在が鮮明になってきました。本校の「たく糸とよこ糸」の強みをさらに活かして、個別のきめ細かな指導に取り組んでいきたいと考えています。

(校長 甲田 敦三)



学習規律の徹底を目指した
生徒指導・学習指導の取組

新見市立思誠小学校

1 はじめに

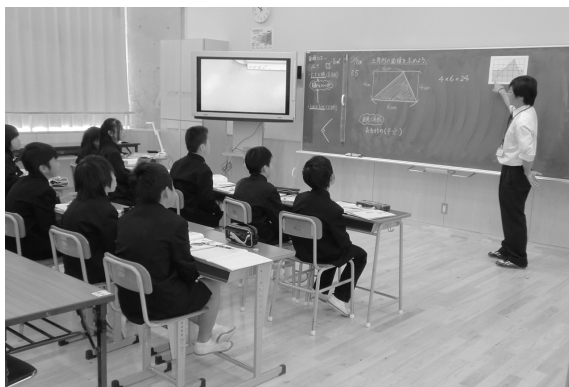
本校は、暴力行為、器物破損などの問題行動が多発し、家庭・地域との連携も取りづらい状況でしたが、生徒指導・学習指導両面での取組を徹底した結果、落ち着いて生活や学習ができるようになってきました。大きな問題行動はなくなりましたが、児童が抱えている心情面の問題への対応が課題となってきました。

2 取組の概要

(1) 「思誠っ子 学びの10か条」

学校生活のほとんど全てが授業や勉強であることから、「学ぶ喜び」「分かる喜び」が児童の充実感につながり、生活全体が落ち着くと考えました。教師が大事にすること、児童に大事にしてほしいことについて学習

指導・生徒指導両面から話し合い、「思誠っ子 学びの10か条」にまとめました。学習規律を徹底し、生徒指導上の効果も狙った取組です。



居場所・充実感のある授業の様子

(2) 習熟度別指導の推進

一斉指導やT・T指導では不十分であった児童の習熟度の差に対応するため、全学年、算数科

において習熟度別少人数指導を実施しました。学年の実態や単元に応じてT・T指導を取り入れたり、学年を3コースに分けたりするなどの工夫をしました。必要に応じて、学級を3コースに分けたこともあります。



習熟度別指導の様子

(3) 家庭・地域との連携

「家庭学習の手引き」を作成して全家庭に協力を呼びかけたり、「あいさつ週間」を設定して地域と連携した取組を実施したりしました。毎月第2週のあいさつ週間には、家庭や地域にチラシを配付しました。また、学校便りやホームページを充実

させ、情報発信にも力を入れました。

3 成果

「学びの10か条」の徹底により、授業が充実し、学校生活も充実していききました。問題行動は激減し、学力も向上しました。それは、全国学力・学習状況調査の結果にも表れています。家庭・地域からの好意的な意見も多くいただくようになりました。

4 今後の更なる取組の充実

現在は不登校や登校しづりなど、学校生活に対するエネルギーが不足している児童やその保護者への取組を進めています。「学びの10か条」は学習指導面に特化し、「まなびの約束」へと進化しました。習熟度別指導も、取組を続けていると、どうしてもマンネリ傾向になり、効果が表れにくくなります。そこで、コース分けやT・T指導との効果的な使い分けを工夫するなどして、さらなる高みを目指して、研究を進めたいと考えています。

(校長 正村 政則)

生徒会活動の充実を基盤にした積極的生徒指導の
推進と小中高連携による学力向上の取組
和気町立和気中学校

1 はじめに

本校は、十数年前においては、生徒指導面で問題行動が多発していました。そこで、生徒会活動と部活動とを活性化させることにより、生徒自身に母校に対する誇り（愛校心）と自己存在感をもたせ、学校の建て直しを図ってきたという経緯があります。

2 本校の取組

(1) 生徒会活動の充実

生徒が主体的に活動する機会を意図的に設け、課題解決力の修得と人間関係構築力を高めさせることで、自己存在感や自己有用感を味わわせる取組を推進しました。

① 「和気中日本一のための3か条」の具現化の推進

○ 伝えよう！笑顔のあいさつ 日本一
「ハピスマ」活動：登下校時における校門前でのあいさつ運動

○ 磨こうぜ！床も心も 日本一

「整備レンジャー」：清掃活動を先頭に立って行い、校内美化に努める組織の事です。
「ピカ☆ボラ」というボランティア活動を、年3回実施しています。

○ 響かせろ！我らの歌声

日本一
「歌うんジャー」
：笑顔と大きな声で率先して歌い、活気のある学校にしたいことをする組織の事です。



パートリーダーを中心とした全校合唱練習

② 学校行事の充実と創意工夫

○ 「飛翼大会(体育会)」及び「翔輝祭(文化祭)」において、生徒の親交・連帯感を深めるとともに学級を越えた集団づくりを目的としていきます。

的としていきます。

③ 専門委員会活動の充実と活性化
④ 一人一人が輝く集団づくり

生徒の実態や人権尊重の理念を踏まえながら、「自分と他者の良さを見つけ、認め合える」集団づくりに努めています。

⑤ 心理検査を活用した学級経営
(2) 学力向上に向けた取組

① 放課後学習支援活動
地元の和気閑谷高等学校の生徒ボランティアと地域おこし協力隊及び地域おこし企業人の協力をいただき、月曜日を基本として、放課後に数学の補習学習を実施しています。

② 出前授業

地元の和気閑谷高等学校の先生を講師にお招きし、授業をしていただきました。昨年度は、校長・教頭・教務主任の三名の先生が、それぞれ、国語、理科、数学の授業をしてくださいました。

③ 論語学習

地元の和気閑谷高等学校の生徒ボランティアによる、論語学習を本校の一年生を対象に行います。また、学習後に、高校生活に関する質疑応答をする時間を設け、進路学習の一つの取組としていきます。

(3) 人権教育の推進

① 人権月間の設置

六月と十一月を「人権月間」とし、人権について考えたり、学習してきた取組をまとめたりします。

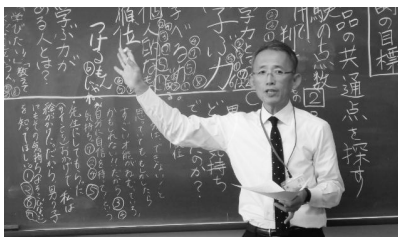
② 学級人権宣言の作成

③ 人権集会の開催

④ 人権劇(3年が文化祭で上演)

3 成果と今後の取組

こうした取組により、問題行動等が減少し、落ち着いた学習環境となり、学校行事においてもはじめある態度で参加できるようになってきました。文化祭での人権劇を町の「和気町人権尊重のまちづくり推進大会」で毎年上演し、地域から好評を得ています。しかし、本校においても、「学力の向上」「家庭学習習慣の定着」「メディアの使用時間の短縮」は、重要な課題です。今後とも、本校教職員が一丸となり、共通理解を図りながら取り組む所存です。



和気閑谷高等学校との中高連携

(校長 森定 宏之)

学力向上と中一ギャップ解消を目指した 小中連携の取組

高梁市立成羽中学校区

1 はじめに

成羽中学校区では、これまでも小中の垣根を少しでも低くしようと交流を行ってきました。しかし、中学校の不登校生徒の出現率は高く、特に5月以降、中学1年生の欠席者が増える傾向にありました。また、全国学力調査から、基礎基本の定着が十分できていないことや家庭学習の時間が少ないことなどの小中共通の課題も見えてきました。そこで、これらの課題の解決を目指し、平成25年度に小学校が統合し、近距離に一中学校一小学校となったことを機に、学習面・生活面において「9年間の学び」と捉えた小中連携を進めていくことにしました。

2 三つの取組

(1) 小中交流活動の促進

中一ギャップを取り除くため、



ピアサポートの様子

中学校教員による出前授業、中学生が小学生に学習を教えるピアサポート、小学生が中学校を訪れての合同授業や行事への参加などに取り組みました。中学校に対する不安感を期待感に変えるために、どの活動も小学生の体験を重視したものとしました。

(2) 小中の学びをつなぐ授業改善

学力向上のカギとなる小学校から中学校への学びの方法や授業内容をつなぐため、教員が相互の授業参観や意見交換会を通して授業改善に取り組みました。中学校では、小学校での既習事項との関連を図り学習のスパイラル化を意識した授業を行うことができるようになり、小学校では中学校の学習内容を確認し中学校の学習につながるよう工夫しました。また、小中の授業スタイルをそろえ、授業への戸惑いをなくし学力の定着を図りました。

(3) 家庭学習・生活習慣の改善

学習意欲を高め家庭学習の習慣を定着させるために、家庭学習の手引きの作成、自主学習ノートの活用、ノーテレビ・ノーゲームウィークの取組を行いました。小中の連携で、9年間を見通して保護者に共通の呼びかけを行うことができます。特にスマホの課題改善に向けて、生徒会と児童会で企画した「中学生のスマホ出前授業」を小学校で行い、スローガン「九時だ

よ！全員終了！」の幟のぼりを小学校に贈呈し、一緒に取り組んでいこうと呼びかけました。



スマホ出前授業の様子

3 おわりに

こうした取組により、中学校において不登校につながる4、5月の欠席者数が大きく減少するとともに小中学校の連携の取組に保護者の協力も加わり、家庭学習習慣や生活習慣が改善し、全国学力調査においても平均正答率の改善が見られました。今後小中連携を推進し、一人一人の9年間の学びを大切に育てていきたいと考えています。

(成羽小学校長 東 史高)
(成羽中学校長 岡本 恵子)